



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

ローカルメディアによる 地域の魅力発信

私たちは一体どんな情報を、どこから得て日々の暮らしをしているのでしょうか。口コミだけしか情報伝達手段のなかった昔に比べ現代は、テレビなどのマスメディアやソーシャルメディアの普及もあって、遠く離れた海外の色々な情報さえ瞬時に手元に届き、何が本当の情報なのかさえ分かりにくい時代となっています。メディアにはテレビ、新聞、雑誌、ラジオといったマスメディア、インターネットを介するウェブメディア、そしてスマートフォンなどの最新デバイスを主に媒介とするソーシャルメディアなどがあり、それぞれのメディアには複数の広告媒体がついています。一方地方に特化したローカルメディアとでもいうべき情報は、一定の広がりや定着は認められるものの、それらに関わる担い手不足と難しさから、地域の魅力を十分発信するまでには、

成熟していないというのが正直なところで

1 一方通行の広報紙

私は若い頃、役場の職員として教育委員会では社会教育をしながら、町の広報を十年間にわたって担当しました。当時広報「ふたみ」は月に二回の発行でしたから、タブロイド版といえどたった一人で、社会教育と広報という二足の草鞋を履きながら、通算二百四十号を発行した思い出は数限りなく、行政が発行する小さな広報紙が町の世論を形成し、今を切り取って記録し、記憶に残してきたことに深く関わったことを嬉しく思っています。

小さな町ながら目と耳のアンテナを広げ、靴底をすり減らして町内の隅々まで寸暇を惜しんで歩き回り、取材した様々な出来事を記事にして、町民の元へ届けたつもりでしたが、思えば広報紙という媒体手段が一方通行であることに気が付いたのは、お粗末ながらかなり後のことでした。ローカルメディアⅡ地方紙(広報紙含)だった紙媒体主流のアナログな一方通行の情報とは、今も市民に対するお知らせ的行政広報として、地元の広報委員などを介して市民

の元へ送り届けられています。活字離れもあって今では時代遅れの感が強く、それに代わる手段と方法はホームページ程度で、残念ながらまだ見つかっていません。

2 ソーシャルメディアのブログによる 地域の魅力発信

現代はインターネットやスマホなどの普及もあって、デジタル主流の世の中になりつつあり、私のようなパソコンを学校で習わなかった世代には、何とも住みにくい世の中になったものだとしみじみ思うのです。

さて私は2006年から殆ど毎日欠かさずことなく、パソコンを使ってアメイバブログ(shin1さんの日記)のWordPress(人間牧場)に、2本のブログを書いて投稿しています。1年365日×2本×13年ですから単純計算しただけでも、私がコッソク書いた記事はこの13、14年間で、有に1万件を超えているのですから、驚くほかありません。毎朝4時ごろに起床し、前日あった出来事やその日に予定されていることなどを、住んでいる町の様子も交え、日々の想いを自分というもう一人の人間と自問自答しながら、毎日1時間ほどかけて書き綴りアップしていますが、いつの間にか私の周